

With コロナ時代の海外出張

5月連休明けからCOVID-19は5類扱いになるということで、いよいよ本格的に“With コロナ時代”に入ったといえよう。国内学会は一部オンライン参加の選択肢を残しているものの、基本的に対面開催に軸を移してきている。実際、現地参加してみると、ちょっとした通信トラブルで氣勢をそがれることもないし、聞きたいと思ったその場で質問できる機運が高まってきていると実感する。本来あるべき学会の姿に戻つつあると思う。



一方、海外はどうであろうか。ここ2ヵ月で近隣3ヵ国（中国・台湾・韓国）を訪問する機会を得たのでその感想を述べたい。いずれの国も日本国内と同様、街中は多くの人で賑わっており、コロナ禍前を思わせる様相だった。飛行機内はどの便でもマスク着用を求められたが（日本の航空会社でなくても）、街中は各国でバラバラであった。台北ではほぼ全員がマスクを着用していたが、北京では全く逆ではば着用なし、釜山はその中間といった感じである。政府の方針なのか、理由はよくわからないが、国民性が垣間みえた気がして興味深かった。

学会では完全に参加者数が戻ったとはまだいえないようである。おなじみの会場がずいぶん広く感じられた。ウェブからの質問はなかったが、視聴はできようで、それゆえ現地の人数は回復していない様子である。それでも古い知り合いにあちこちで声をかけられ、近況を報告しあうのは他愛ないとはいえ、うれしいものである。ちょっと困ったのは、中国では以前不要だったビザを求められ、その手続きが信じられないくらい大変であった点である。東京・有明のビザ申請センターは、予約したにもかかわらず長蛇の列で、予約時間によって受付の順番が整理されるわけでもない（横入りも可能）ので、非常に効率が悪い。申請手続き終了まで3時間弱を要し、再度受け取りに行く必要があるとなれば、何度も中国に行く気がともしない。韓国・台湾の場合は以前の制限がほぼ撤廃され、ワクチン接種証明さえあれば、出入国は非常にスムーズであった。

懇親会ではほぼ以前の様相に戻っていた。韓国では焼酎をビールで割って「パイナップル」と称し、一気に飲む。そのまま飲めば十分美味しいのに、何故わざわざ不味くしてから飲むのか、いまだに理解できない。中国ではアルコール50度を超える白酒を手に入れた人が入れ代わり立ち代わりやってきては挨拶代わりにこれも一気に飲むので、途中から味も何もわからなくなる。こちらでも普通に飲めば香りもよく大変美味なのであるが、何故わざわざ味がわからなくなるようにして飲むのか意味不明である。とはいえ周りに気圧されて、結局は飲んでしまう自分が一番問題であることも理解している。“With コロナ”で肝臓にとっては受難の時代が復活したといえるのかもしれない。

（長谷川 潔）

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏
名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史
編集 佐野 武 長谷川 潔 船橋公彦

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)	臨床雑誌 外科 第85巻 第7号 (6月号)	2023年6月1日発行 (1074号)
	編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
	印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社
発行所 株式会社 南江堂	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番	
	(編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 https://www.nankodo.co.jp/	

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036